

戦国期には、小田原に本拠を置き、関東制圧を目論む後北条氏とそれに対峙する勢力との凌ぎあいの場ともなり、多くの武将が文書で足跡を残しています。後北条氏は勢力を北へ延ばし、当地もその勢力下に入りましたが、氷川女體神社所蔵の北条氏綱制札・北条氏印判状（市指定）のうち、大永4年（1524）の北条氏綱制札は県内に唯一残る北条氏綱の文書といわれています。

慈恩寺文書（岩槻区、市指定）は同寺に伝来した500点余りの文書で、後北条氏に抵抗していた天文18年（1549）の岩槻城主太田資正の寄進状が含まれます。井原家文書（市指定）は後北条氏の家臣である桜区の家伝に伝来したもので、永禄6年（1563）に後北条氏が発給した文書が含まれます。北条家印判状（市指定）は天正8年に福蔵寺（岩槻区）を巡る争いを裁決したもので、それ

まで後北条氏に抵抗していた岩槻が、当時後北条氏に支配されていたことを物語る貴重な史料となっています。

太田氏房印判状（中央区、市指定）は天正15年に岩槻城主北条（太田）氏房が与野郷周辺の堤防築造を命じたものです。



▲大永4年北条氏綱制札（氷川女體神社所蔵）

人物

酒井忠世書状（玉蔵院所蔵、市指定）は、徳川秀忠の側近だった酒井雅楽頭忠世が玉蔵院住職に宛てた書状で、玉蔵院住職の將軍拜謁についての指示が記されています。酒井雅楽頭忠世は寛永10年（1633）上野・東照宮に鳥居を寄進したことで知られる人物です（写真右）。

小谷三志関係資料（市指定）は南区の個人宅に伝わる不二道関係の資料。小谷三志は江戸時代の半ば鳩ヶ谷の生まれで、富士講に入信、教祖となるや、名を不二道と改めた人物。富士登山を160回以上行い、社会奉仕を進めました。三志の弟子は鳩ヶ谷近在に多く、同宅の祖先も三志の直弟子です。

鈴木荘丹関係資料および稲垣田龍関係資料（市指定）はともに与野で活躍した文化人に関するもの。鈴木荘丹は儒学、医学、俳諧などを学び、「与野八景句集」などを残しています。そこには、「落合」「中里」「高沼」「大戸」といった地名が記されています。稲垣田龍は陰陽道や天文暦学、占星術など広い範囲の自然科学を修めた学者で、地動説にいち早く共鳴し、天体の動きなどを図示した「地転新図」などを著しています。



宿場文書

市内には、江戸時代の宿場として、中山道の太宮宿と浦和宿、日光御成道の大門宿がありました。このうち、旧浦和宿本陣文書（市指定）は浦和宿本陣星野家に伝来した文書で、天正18年の豊臣秀吉の禁制や浅野長吉の禁制が含まれています。元禄10年（1697）の「浦和宿高見世場絵図」は浦和宿最古の絵図。「玉垣」「伊勢海」「花籠」といった関取の名が記される文書も含まれています。

一方、太宮宿名主・問屋を努めた家に伝来したのが北澤家文書（市指定）。太宮宿や村政、紀州鷹場関係を中心とした文書です。日本の近代

漫画の先駆者と称される北澤楽天はその末裔です。また、会田家文書（市指定）は大門宿本陣や紀州鷹場鳥見役、大門宿名主を努めた家に伝わる文書で、安永5年（1776）の徳川家治、天保14年（1843）の徳川家慶の日光社参に関するもののほか、鷹場絵図などは見逃せません。勝田家文書（市指定）は岩槻の市の肝煎や岩槻宿の名主を努めた家に伝わるもので、市や岩槻特産の木綿売買に関する文書が多く、岩槻城主高力清長から発せられた慶長6年の掟が最古です。

（法華寺文書・旧浦和宿本陣文書については、埼玉県立文書館写真提供）



▲天正18年豊臣秀吉禁制
（旧浦和宿本陣文書 No2）

※ここに記したものは指定文化財の一部です。また、公開していないものもあります。見学等については、所有者の了解を得た上でお願いします。